

看護師相談室 実状報告～臨床現場での生の声～

皆吉田津子¹、桑原愛¹、浅井麻利子¹、友崎薫¹、橋本知子¹、中岡義晴¹、森本義晴²

¹IVF なんばクリニック ²HORAC グランフロント大阪クリニック

【諸言】

日本の生殖医療は近年著しい発展をとげているが、心のケアの問題は未だ十分な方向性を得ているわけではない（生殖心理学会 HP より）。

当院で実施している『看護師相談室』の相談活動の実状を報告すると共に、臨床現場での生の声を紹介する。

【対象・方法】

対象：2016 年 1 月～2018 年 8 月までに相談室に来談した計 78 名

方法：看護師が記録した相談内容を『治療について』『精神面について』『終結について』の 3 つに分類して集計・分析を行った

【結果】

治療についての相談 52 名

- 治療の基本的な知識が欲しい ●ステップアップについて ●仕事と両立出来るのか
- 不育検査を行うべきか ●今までの治療振り返り ●採卵するべきか・移植するべきか

精神面についての相談 17 名

- パートナーとの気持ちの差が大きい ●治療の事を話せる友人がいない
- 判定までや判定以降、不安や気持ちの落ち込みがある
- このまま妊娠しなかったらどうしよう ●凍結胚が無くなったらどうしよう
- 胚盤胞にならなかったことがショック ●治療が長くなっている事が不安

終結についての相談 9 名

- やめどきがわからない ●自分はやめたいがパートナーは治療に積極的
- 養子縁組・卵子提供の情報が知りたい ●告知について

【考察】

相談内容は、治療に関する全般的なこと、夫婦間のコミュニケーションの取り方や、治療に対する漠然とした不安、治療以外の選択肢、と多岐にわたり、一律な対応は難しいことが示唆された。

【結論】

不妊治療は忍耐強く努力しても、必ずしも努力が報われる治療ではない。そのため治療を

振り返った時に後悔のないようにするために、自分の治療を理解し、様々な選択肢を知る必要があると考える。悩み事があれば、その思いを話す事で自分の気持ちを整理することもできる。患者が相談できる体制を今後も整え、安易に意思決定を迫るのではなく、自分で決定できる十分な手助けを行えるように支援していきたい。